



辻川だより

第25号 [2013 春号] 平成25年4月6日発行

発行 辻川区 [辻川公民館]
〒679-2204 福崎町西田原 1227
TEL 0790-22-5763
ホームページ http://www10.plala.or.jp/tujikawa/public_html/

3月23日 辻川山の桜開花



三世交流グランドゴルフ大会

- ・8時30分開会（雨天中止）
- ・辻川山の町民第1グランド
- ・個人戦（隣保対抗ではありません）
- ★ 当日の飛び入り参加可能

そこで、異世代が共存していくことの大切さを見直すきっかけになればとの思いもあって、あえて「三世交流」という名称を使ったわけです。地域の住民が交流することによってコミュニケーションがはかられ、地域の子どもたちがすこやかに育ち、心のかよいあう地域づくりが出来るものと考えます。この機会に是非参加して、一日楽しく過ごしていただきたいと思います。

三世交流

区長 釜坂道弘

平成二五年度の辻川区の事業として「三世交流グランドゴルフ大会」を計画しました。これは、以前から住民の方々の要望でもあり、それにもまして、子どもと高齢者の交流を意図的につくり出す必要性を感じていたのであります。子どもと高齢者の世代を超えた交流は、かつては、家族や地域の日常生活の中にふつうに存在するものでした。地域社会では大人は子どもたちを見守り、他人の子どもでも悪いことをした時には叱るということが、ごく自然に行われていました。そのような社会が最近では、少子高齢化や核家族化が進んだこともあり、急速に変化してきました。



三木家住宅に屏風絵



協議員会は今

- ① 2・3月の協議員会での報告・検討内容を一部紹介します。
- ② 協議員の担当分担確認
- ③ 今年度の自主防災訓練は消火栓消火訓練を3回実施。3月には開井（ハケツ）使用可能井戸の使用許可確認も。
- ④ 第1回三世交流グランドゴルフ大会の内容確認。準備は体育委員を中心に。

④ 鈴の森神社玉垣修築と「地縁団体としての法人化」検討は特別な委員会を設けず協議員会で推進する。玉垣修築のための基礎工事（延べ石敷設）は財政積立金より拠出。「法人化」については来年度総会で議事として提案することを目標に。

「お知らせ」

「銀の馬車道」が

日本ユネスコ未来遺産に

昨年11月、日本ユネスコ協会連盟が銀の馬車道ネットワーク協議会の「銀の馬車道プロジェクト」を、地域の文化・自然遺産を未来に伝える市民の活動を応援する「第4回プロジェクト未来遺産」に決定した。これで過去4年間で、応募146件中、全国で39件が認定。

「地域の夢推進事業」

県と町が平成23年度から3カ年計画で取り組む「地域の夢推進事業」の2年目の事業として昨年11月、改修中の三木家住宅の仮囲いに松岡映丘の屏風絵とその説明がラッピングされた。この屏風絵は柳田兄弟の末弟である日本画家映丘さんの「矢表（やおもて）」という

平家物語の屋島の合戦を題材にした大作だそう。改修工事概況の説明パネルと合せてご覧いただきたい。

また、今年2月には柳田國男生家・記念館や歴史民俗資料館周辺の美装舗装、スロープの設置等によるバリアフリー化がなされた。

《当面の予定》

- 4月27日(土) 民俗(辻)広場まつり(福崎町主催)
- 4月29日(祝) 三世交流グランドゴルフ大会
- 5月中下旬 溝普請
- 6月 フラワーポット植替
- 7月6日(土) 各種団体・隣保長会議

祭礼行事報告

- ◇1月1・2日 正月祭り
- ◇1月6日(日) 冬えびす
- ◇1月13日(土) とんど



鈴の森神社では正月飾りを持った子どもたちの姿が目についた。子どもが付き物の年中行事になればいいのだ

以上十二隣保 以下十三隣保
◇2月3日(金) 節分 年越祭
十三隣保最初の祭儀。「歳灯」とお神酒で温まった。

◇2月17日(日) 初午祭
子ども相撲が復活。しかし、マサ土の立派な土俵に参加は3組だけだった。残念



◇12月16日(日)
老人会と子ども会による鈴の森神社の清掃と「ふれあいグランドゴルフ大会」が行われた。小学生54名をはじめ約100名が参加。
雨上がりの辻川山に歓声がこだました。

事業報告

◆12月2日(日) 消火栓消火訓練

ブロック毎の訓練であったが、各ブロックとも二〇〇〜三〇〇名の参加があった。昨年9月の区内での火災を受けての訓練であったこともあり、危機感を持って多くの住民の参加があった。消火栓のふたの開け方に辻川区内では3タイプあることを知った。筒先やスタンドタイプのパッキン劣化が目立つ。継続的な点検整備が急がれる。



◆1月20日(日)

平成25年度辻川区総会
八八名出席。第1〜5号議案承認。区長・協議員を選出。

辻川山の手入れは5月に下刈り、11月に植栽を予定、自主防災訓練として年3回の消火栓消火訓練実施予定、消防団と連携して隣保の方も消火栓の点検を、鈴の森神社玉垣の土台改修費は財政積立から拠出等が報告された。

「質問・意見」…繰越金は年度末に一度積み立てて必要に応じて出金を。協議員と消防団が一体となった活動を。玉垣改修推進は協議員会で。

◆1月26日(土) 新隣保長会議

- ① ブロック長の選出
- ② 町内会費徴収について
- ③ 2〜4月行事・事業確認
- ④ 十三隣保から平成25年度祭礼行事日程について等

◆3月3日(日) 消火栓講習・防災設備調査

今年度3回予定している自主防災訓練の初回。春の火災予防週間に合わせて消火栓消火訓練を実施した。今回もブロック毎に行われ十五〜二〇名程度の参加があった。消防団員の解りやすい説明に納得。全ての住民参加、特に風間区内におられる方の積極的参加が望まれる。訓練終了後、協議員で震災により長期にわたる停電・断水が続く場合の、井戸（開井）の使用許可について協力確認に回った（1ブロックは調査済）。協力していただける十五軒のお宅は次号で公表予定。感謝

平成25年度辻川区役員一覧 [総軒数三三三軒]
4月から団体役員に一部変更があります。(4/6現在)

- 区長 釜坂 道弘
副区長 内藤 政義 (総務)
会 計 川端 一郎
協議員 () は主な担当
- 田崎 正和 (広報)
松岡 博子 (文化)
鈴木 健文 (環境)
井上 良宣 (文化)
桑原 賢治 (土木)
植田 弘造 (環境)
前田 亮平 (体育)
中村 武嗣 (体育)

- 隣保長 (◎はブロック長)
1ブロック [世帯数] 山口 章範 [三]
◎ 1 山口 章範 [三]
2 川端 一郎 [四]
3 松岡 幸雄 [三]
4 木村健一郎 [一]
2ブロック
4 小畑 一三 [七]
5 松岡 義隆 [三]
6 内藤 隆夫 [一]
◎ 7 松岡 春美 [一]
3ブロック
◎ 10 酒井 敬幸 [三]
11 鈴木 弘 [一]
12 松岡 寿孝 [一]
13 藤原 秀樹 [三]
4ブロック
8 大野 義晴 [一]
9 山道 和樹 [一]
◎ 15 奥平 高雄 [一]
20 村越ひさ子 [一]
21 人見 民男 [一]
5ブロック
16 釜坂 真一 [三]
◎ 17 上原 浩 [一]
18 山内賢二郎 [一]
19 北川 祐典 [一]

- 団体役員 (代表のみ紹介)
老人会 上延 教泰 第1分
内藤 泰彦 第2分
小谷喜多男 第3分
女性部 小畑富久美
商工会 古井 徹夫
農業部会 上延 英一
消防団 駒田 忠成
青年団 内藤 大智
小学PTA 見藤 茂
中学PTA 堀 一夫
上部派遣役員
民生委員 山下美紀
鈴木まき子
福祉委員 岡本徳子
松岡初子
補導委員 駒田富男
人権教育推進委員 内藤政義
松岡博子
青少年健全育成委員 川端一郎
体育普及員 駒田仁
文化財協力委員 田崎正和

4隣保担当

辻川の道

5 旧福崎町役場
があつたころ

〔昭和三一年〜五〇年頃〕
「今このカケアカリ(現田尻の交番付近)を西にまっすく市川に架かる神崎橋に向かって舗装道路が新設されている…」との記録(昭和二四年三月)に登場する県道三木―山崎線(現田尻辻川線)の開通によって辻川の風景は大きく変化する。旧来の「東所」「中所」「西所」に「新開地」が加わったのである。



図1 国土地理院 昭和40(1965)年2月 撮影 [ほぼ図2と同じ範囲]

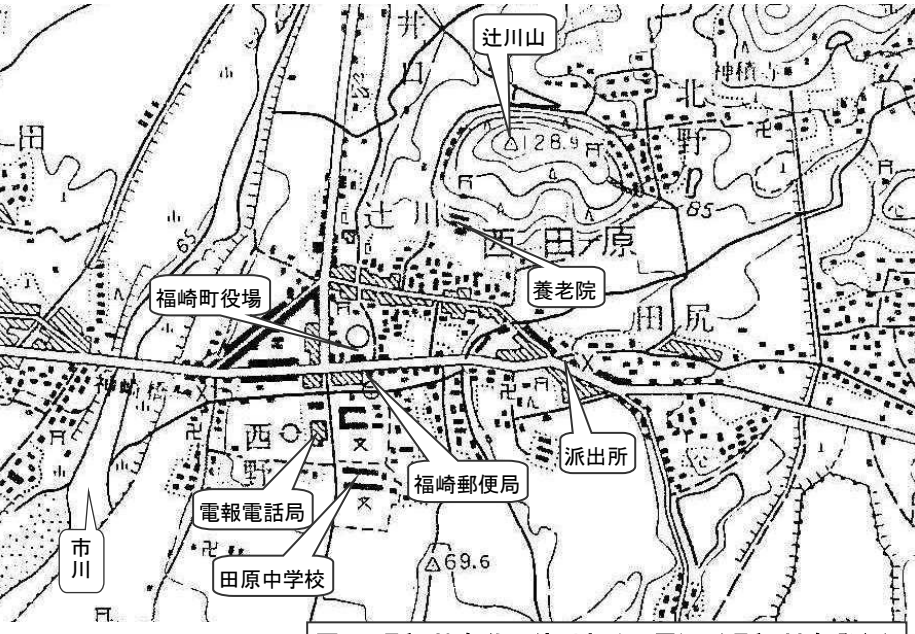


図2 昭和40年代の辻川とその周辺 (昭和44年発行)

この「新開地」発展の起爆剤となつたのが現辻川歩道橋西北の更地にあつた昭和二五年設置の神崎地方事務所である。合併前からその設置場所については福崎・田原二町村間で確執(注1)があつたといふ。

新福崎町は昭和三一年五月三日に始まつた。町名を福崎町役場を旧田原村役場に、そして初代町長には旧八千種村村長が就任した。旧田原村役場は現JA兵庫西福崎東支店付近にあつた。その後(昭和三三年頃か?)元神崎地方事務所の建物へ移転した町役場は、現庁舎約二十年間、この地で町行政を執り行った。

合併当時の地図には辻川に次の公共施設が見える。一隣保に福崎電報電話局(注2)、二隣保に団体事務所(旧神崎郡役所)、三隣保に福崎保健所と法務局、八・九隣保間に田原村役場、十五隣保に農林出張所(神崎地方事務所)と福崎郵便局(注3)。

昭和三十年代半ば以降の新道筋発展の象徴は、昭和三九年に郡内初の信号機が辻川交差点についたこと。昭和四五年(注4)には郡内初の歩道橋が役場東に完成した。図1・図2(昭和四四年)には、まだ福崎ボウリング場閉鎖後、その建物を利用して銀ビル(注5)がオープンしたのが昭和五二年だった。

図2の田原中学校は昭和二二年に発足したが、五四年に田原小学校の新校舎建設に伴いその歴史を閉じた。現小学校南のフィールドアスレチックが広がる場所にあつた。体育館のみが今も残る。翌昭和五五年に福崎東中学校が開校した。

昭和四八年の播但自動車道砥堀―福崎間開通に始まる高速度路網の整備に伴い、道はさらに南へ変遷する。翌四九年には中国縦貫自動車道の西宮北―福崎間が部分開通し、五八年には中国道は全線で開通した。同じく昭和五八年には福崎大橋が開通し役場南の新道(現三木―山崎線)が東西交通の幹線道路になっていく。 **終わり**

参考文献・出典

- ・福崎町史 第二巻・第四巻
- ・神崎郡歴史民俗資料館特別展 福崎町の文化財(平成二六年) 福崎記(平成一八年度)
- ・福崎の道(平成一九年度)
- ・柳田國男著「故郷七十年」他

編集後記

辻川の交易道の歴史は、991年、有(在)井堂に休泊された慶芳上人(1348年卒)に始まるようです。その後、東西の道は時代の要請に答え、新たに南へ南へ移動しその周辺に街をつくってきました。道の変遷をまとめるために、その時々が閉じ込められている地形図を重視しましたが、まだまだ掘り起こしは不十分です。現もちむぎのやかたにあった煙草専売収納検査所跡地には春になると白花タンポポが咲いていました。九州から葉煙草が持ち込まれていたのでしょうか。 [田崎]